

意識を変えていこう

みんながルールを守ろう

住人同士で費用を出し合って排雪した団地の敷地の中へ、勝手に雪を捨てていく人がいます。それぞれの地域で、配慮ある行動をしてもらいたいです。

(西区 相田富代さん 51歳)

路上への雪出しはほとんどの人がやっているように見受けられます。一人一人がルールを守り、気持ちよく生活できるようになるといいですね。

(中央区 女性 33歳)

互いに思いやりの気持ちを持って

私の夫は除排雪の仕事をしており、天候によって2、3日休みなく作業にあたることもしばしば。手を抜いていると責められる場合もあるようですが、除排雪業者はそれぞれが市民の生活を守ろうと、懸命に仕事にあたっています。

行政も除排雪業者も住民も、目指すところは「雪と戦い、冬を乗り切る」こと。みんな同じです。みんなが同じ気持ちで頑張っているのだから、文句を言い合う



のではなく、お互いに思いやりながら、協力して冬を乗り越えていくべきだと思います。

(清田区 村中友香さん 25歳)

こんな方法がとれるのでは？

市役所から

排雪方法に工夫を

近郊の雪たい積場へ運搬するより、札幌のど真ん中を流れる豊平川を排雪場として使う方がコスト・時間の面から効率的だと思います。橋の上に雪を置いていき、排雪車がその雪を川へ放出するという方法はどうか。

(白石区 40代 男性)

排雪から融雪へ

人の手による排雪から、融雪処理へと対応を転換すべき。道路下から温かい蒸気を噴射するなどの方法を試してみてもは。

(北区 50代 男性)

融雪槽と流雪溝を一定間隔に併設して、除雪すると同時に雪を流してしまうといいと思います。

(北区 男性)

河川への雪の投入は、川の流れを阻害し、はんらんを招く恐れがあります。また、融雪施設については、幹線道路のロードヒーティングを例にとると、通常の除排雪の約10倍のコストが掛かっており、今後は、低コストで安定して融雪できる技術が求められます。



厚別通(白石区)のロードヒーティングの様子。

市長から

皆さんの意見を受け止め、今後の雪対策に生かしていきます

より地域の実状に応じた雪対策を実現するためには、皆さんからの声が欠かせません。今回いただいた貴重なご意見をしっかりと受け止めるとともに、皆さんにも現状を理解していただき、今後の雪対策と一緒に考えるための取り組みを推進していきます。



市長
上田 文雄

始まっています!新たな取り組み

11月号では、「行政と市民が新たな除雪方法について意見交換し、実行に移す取り組み」を紹介しました。その後、各地区をモデルとして、さまざまな試みを展開しています。

- 除雪の出動基準を10㌢⇒15㌢に変更し、節約した費用で交差点排雪などを行う
(東区・札幌新栄町内会など5地区で実施)
- 排雪箇所や雪解け後の清掃など、地域でルールを決めた上で、試験的に公園を雪置き場として使う
(中央区・宮の森東3町内会など3地区で実施)
- 区内各所の除雪状況などを住民が視察し、配慮すべき点を除雪センターに伝え、可能な限り作業に反映させる
(厚別区・第2桜台町内会など2地区で実施)

雪対策のほか、冬の生活・文化に関する豊富な情報が満載!

雪対策HP www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki

雪たい積場
情報も掲載!